

いふものは、商人のいふ直段に買取、手打などして祝ひ、直段を直切るといふことなし、扱商人大門より入て、賣ては大門へ出、また取て返しては大門より入て賣る、下もより大門口へ出る時賣聲なし、買人も上より來るのみ買ふなり、是は古きことなるべし、

〔日次紀事正月〕凡新年俗間、始買葷辛之類、并蛤蜊海參、葷辛除疫鬼、蛤蜊取和合之儀、海參其形似米囊、故祝之曰俵子、

〔日次紀事正月〕四日 諸職人各始家業、市中今日諸商賣人亦始其事、凡裁補年中所記、十一日 帖綴諸商今日綴年中買賣之簿、是稱帖綴、饗酒食互祝之、

〔守貞漫稿 二十六〕正月二日、三都トモ買人ハ、今曉丑或ハ寅ノ刻ヨリ初賣ト唱テ、行人多キ街店ハ

品物ヲナラベ、蠟ヲ點シテ賣之、又京坂ハ諸品物ヲ得意ノ家ニ携ヘ行テ賣之、蓋日用ノ品物ノミ也、諸品物ヲ中ニシテ、兩人ニテ擔之、行ク、其詞曰、ハアヨイ、ヨヒ、ト呼行ク、又大坂ノ榮蔬買ハ、今曉氷菜一名玉生ヲ賣リ巡ルヲ

例トス、江戸ニテハ日用ノ品物ヲ賣ル、小賈ハ專トセズ、大賈ハ傳ヘ賣ル中賈ニ諸買物ヲ荷車ニ積ミ、僮僕五七人、或ハ十人、紅ノ弓張挑灯等ヲ照シ、車ニ副テ得意ノ店ニ行ヲ例トス、號テ初荷

ニハツト云、初賣、初荷トモ、天明ヲ限リトスルコト、三都同事、蓋京坂日用ノ品物初賣、昔ハ二日曉ノザル家アリ、故ニ近年ハ或ハ元朝ヨリ賣之者稀ニ有之、又或ハ舊冬ヨリ初賣ノ分ナリト號テ強賣アリ、後世恐ラクハ、皆元日ニ賣之コトニナリ行歟、

〔東都歲事記正月〕二日 船乗初

〔日本歲時記正月〕二日 商家にはあきなひ初をし、舟人は船乗初をす、

〔増山の井〕きそはじめ、餅きぬきそむるいはひ也、三ヶ日のうち吉日を撰びてする也、ある説には競始キヒシとして、舟どもかざりてのりそめ侍る事ともいへり、

〔諸國年中行事大成正月〕二日、船乗始、江戸大坂諸國浦々湊にあり、中略諸侯、方倉屋敷等に行る、は、別して華麗なり、